



武蔵野市水環境連続講座「水の学校」とは

「水の学校」は、市民のみなさんといっしょに、水を知り、考える連続講座です。くらしの中の身近な水循環、下水道の役割や、水に親しみ水を楽しむ知恵、そして世界規模の水課題、地球規模の水循環まで、水を取りまくさまざまなテーマをとりあげ、楽しみながら考えを深め、行動へつなげます。2014年度からスタートし、5年目を迎えました。

連続講座レポート

第3回 使った水はどこに行く？

～多摩川上流水再生センター見学

私たちが使った水はどこかに消えてしまうわけではなく、処理をされ、自然に還されています。その仕組みを探るため、9月8日（土）の第3回講座では、多摩川上流水再生センターの見学を行いました。

水をきれいにして排水しよう

レポーター：水の学校サポーター 千原さん

今年の夏ほど“水と人との関わり”について、深く考えさせられた夏はありません。地震に伴う断水、連続する猛暑日の熱中症対策、集中豪雨による河川の決壊、台風の相次ぐ来襲など。自然が悲鳴を上げている？！

9月8日、秋晴れのもと、私共一行は三鷹駅北口に集合して昭島市にある“多摩川上流再生センター”の見学に出発しました。丁度、6日の北海道地震直後の見学でもあり、皆さん一人一人の表情に真剣な学習意欲が読み取れました。

バスのなかで「この夏の水の思い出」をテーマに、一人30秒の持ち時間で発表しあいました。旅先での思い出・ボランティア活動・節水の工夫・熱中症対策・下水道展・雨水枡、武蔵野市の美味しい水の話等々、たくさんのお話が出ました。また、「水のカルテ」を作成し、用途別に水の使用量を算出・分析することで効果的に節水ができること、トイレのエコタイプ、自動食器洗い機も節水に有効との報告がありました。

市の方から、武蔵野市には下水道処理施設がなく他の自治体をお願いしていること、玉川上水・千川上水は、本日見学する多摩川上流再生センターの処理水によって清流復活が実現したことなどの概要説明を受けました。



3時間余の講義と実地見学を終えて、16時ころ帰途につきました。私たちの使った水がどのように処理されているかを学ぶことができた。処理の様子を実際に見学しながら説明を受け、大変為になった。あらためて水の使用につき考えさせられた。“少しでもきれいにして排水しよう、心して水を使わねば！”との感想が多数寄せられました。本当に興味の尽きない有意義な一日でありました。暑いなか準備に奔走下さった関係者の皆様、参加者一同、心より御礼申し上げます。

受講生・サポーターの声より

- 微生物の力がとにかく凄いのには驚きました。
- 身近にある玉川上水には処理水の中でも更にきれいにした清流が使われているというのがなんとなく嬉しく感じました。下水は巡り巡って自然に戻りまた口にするかもしれない、少しでもきれいに排水していくよう心掛けたいと思いました。

微生物の力による浄化に驚き！

レポーター：水の学校サポーター 丹羽さん

参加メンバー42名、多摩川上流センターに到着後、映像にて施設の役割、水再生処理の説明、更に微生物による浄化と微生物の種類・動きを拡大して詳しく説明をしていただきました。また処理後の水を実際に比較して見る事が出来ました。

その後2班に分かれて施設のポンプ、沈砂池、第一・第二沈殿池、反応槽等、見学と丁寧な説明を実物を見ながら受け、更に展望台に上りそこから施設全体を見ました。最高の景観で全体像が分かりました。

次にオゾン処理棟では実際に行っている、水をきれいにする所（野火止用水・玉川上水・千川上水の放水用）の設備を見ました。

それから地下の連絡管（長さ570m）に階段を降りて通り、八王子側の出口を登って歩きましたが外の暑さと違い川底から更に6.0m地下に通った連絡管は涼しく歩き安くて快適でした。その後八王子水再生にて質疑応答をしました。最近の災害状況で安全性の質問が多かったようです。

初めての水再生処理の見学者が多く、全てに熱心でした。マイクロチップの除去について質問している受講生もいました。今回の参加者の多さとメンバーに若い人がいる事、また初めての見学者が多いのでびっくりしました。まだまだ水の再生処理の事、特に微生物で浄化していることは、知らない人が多いようですね。私は、多摩川と野火止用水・玉川上水、千川上水の処理方法が違うことと水の色が違うことを始めて知りました。



透明度計
皆さんの家庭などから排水された処理前の生の下水から、微生物による汚れの分解処理を経ることで、水がきれいになっていく様子がわかります。

